

創立者・法学博士

ひろいけ ちくろう

廣池 千九郎 (1866 ~ 1938)

慶応2年(1866)、現在の大大分県中津市に生まれる。初等教育に携わりながら、夜間学校の開設や教員互助会の設立に尽くす。

明治24年には郷土史の先駆的業績である『中津歴史』を執筆。これを機に歴史家として京都に出る。

大正元年に東洋法制史で法学博士の学位を取得。同15年、『道德科学の論文』を著して、総合人間学モラロジーを提唱。

昭和10年、千葉県柏市で道德科学専攻塾を開設し、現在の公益財団法人モラロジー研究所と学校法人廣池学園の基礎を築いた。



略年譜

- 慶応2年(1866) 大分県中津市にて誕生
- 明治13年(1880) 小学校の補助教員となる
- 明治21年(1888) 『新編小学修身用書』発行
- 明治24年(1891) 『中津歴史』発行
- 明治25年(1892) 歴史家を志して京都に出る
- 明治28年(1895) 『古事類苑』編纂のため上京
- 明治35年(1902) 早稲田大学で「東洋法制史」開講
- 明治38年(1905) 『支那文典』発行
- 明治40年(1907) 神宮皇学館教授となる
- 明治41年(1908) 『伊勢神宮』発行
- 大正元年(1912) 法学博士の学位を取得
- 大正4年(1915) 『東洋法制史本論』発行
- 昭和3年(1928) 『道德科学の論文』初版発行
- 昭和10年(1935) 道德科学専攻塾を開設
- 昭和13年(1938) 死去(72歳)

交通アクセス

電車をご利用の場合

JR日豊線「中津駅」下車
タクシーで中津記念館まで、約10分

自動車をご利用の場合

- 東九州自動車道「中津IC」から中津記念館まで、約10分
- ①「中津IC」を降りて、県道212号(中津三光道路)を直進
 - ②伊藤田IC入口交差点にて国道10号を左折
 - ③大貞公園入口交差点にて県道675号を右折
 - ④県道663号を左折し中津記念館へ



公益財団法人モラロジー研究所

廣池千九郎中津記念館

〒871-0162 大分県中津市大字永添2423
TEL:0979-22-4309 FAX:0979-22-4907

開館時間/9:00~17:00

休館日/月曜日

入館料/無料

E-Mail: kyushu@moralogy.jp

<http://www.hiroike-chikuro.jp/>

中津記念館 検索

廣池千九郎 生誕・立志の地

廣池千九郎
中津記念館

Chikuro Hiroike
Nakatsu Memorial Center

公益財団法人モラロジー研究所
<http://moralogy.jp/>

廣池千九郎中津記念館について



当館は大分県中津市出身の法学博士・廣池千九郎の生涯と業績を展示しています。

青年時代の千九郎は教育や学問によって世を益するという高い志を立て、初等教育の場でさまざまな改革に尽力しました。また25歳の時に中津地方の郷土史である『中津歴史』を著し、土地の人々に郷土への理解と愛着を持つよう促しました。

中津を出た後もその志を貫き通し、ついに総合人間学モラロジーを創建した廣池千九郎の72年の生涯をご覧ください。



展示室

実物資料や解説パネルを用いて、中津時代から晩年までの生涯と業績をわかりやすく紹介しています。



講堂

講演会や各種集会等を実施(椅子席220名、机席120名収容)

廣池千九郎の生家



千九郎の生家がいつ建てられたかは、資料もなく判明していませんが、江戸後期の農家の姿を伝えるものです。当時の敷地は、約670坪あり、母屋、馬屋、物置小屋がありました。母屋は4間、それに台所、土間等が付いたごく質素なものでした。戦後、数度の改修を経て、現在の姿になりました。



生家内のように手前が土間。その先は広間と座敷。



展示資料の紹介

母からの教え

千九郎の母りえは、親孝行で中津藩から表彰を受けたこともある家の出身で、子供たちに「孝は百行の本なり」(親孝行は全ての行いの基本である)という言葉をお授けになりました。

この書は千九郎が大正3年12月48歳の時に母の実家で揮毫したものです。千九郎は母の教えを信条とし、どのような時も親孝行に努めました。



孝は百行の本なり



『新編小学修身用書』
全3巻

明治21年(22歳)

修身(道徳)科の教材集。小学生でも手本としやすい様に、身近な一般の人々の道徳的な行いを取り上げています。



『中津歴史』

明治24年(25歳)

千九郎が小学校の教務のかたわら書き上げた中津の郷土史。近代における地方史研究の先駆的業績と評されています。